

環境マネジメント

環境に関する方針

環境方針

私たちは、ヘルスケア分野にかかわる企業として、地球環境保全活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

行動基準

1. 環境保全を重視した事業活動を行い、社会の全ての皆様に安心をお届けします。
2. 製品・サービスのライフサイクル、および事業活動のバリューチェーンにおいて、環境マネジメントを推進し、気候変動の緩和への貢献、持続可能な資源の利用（廃棄物削減、リサイクル、水の保全）、生物多様性の保全、化学物質の適正管理に努めます。
3. あらゆる国または地域の適用される環境に関する法令、規制、協定などを順守します。
4. 環境パフォーマンスを向上させるために、環境保全活動の継続的な改善を行い、汚染を予防し、私たちの製品・サービスが環境に与える影響を最小限にするように努めます。
5. 環境教育・啓発を通じて環境意識の向上を図るとともに、地域・社会の一員として環境保全活動を通じた社会貢献に取り組みます。
6. 環境方針から環境目標を設定し、計画的に目標達成に取り組みます。

2018年4月改定

▶ [グローバルコンプライアンスコード「11.地球環境の保護」](#) もあわせてご覧ください。 ▶

シスメックス・エコビジョン2025

「シスメックス・エコビジョン2025」の制定

シスメックスでは「シスメックスグループ長期経営目標」の策定にあわせて、新たに「シスメックス・エコビジョン2025」を制定しました。これは、シスメックスが2025年に向けて目指す長期環境ビジョンであり、これまで以上に、開発・生産・販売・サービス&サポートなどの製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーン全体の環境保全を推進するものです。

長期環境ビジョン

製品・サービスのライフサイクルおよび事業活動のバリューチェーンにおける、2025年度までの環境目標を設定し、地球環境の保全に取り組みます。

1. CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。
2. 資源消費の削減と資源循環を推進し、地球資源の持続可能性向上に貢献します。
3. 事業活動と自然環境のつながりを認識し、生物多様性の保全に貢献します。

長期環境目標（2025年度）



※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ 詳細データは環境データのページをご覧ください。

TCFD提言への対応

近年、気候変動が与える影響は、金融市場において大きなリスクとなってきています。2015年12月に金融システムの安定化を図る国際組織、金融安定理事会（FSB）が「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」を立ち上げ、2017年6月には気候関連の「リスク」と「機会」が企業の財務に及ぼす影響を開示するよう、最終提言を行っています。

シスメックスはTCFD提言で開示が求められている以下の情報について整理を行いました。

1. ガバナンス

▶ 気候変動リスクのガバナンス体制については、こちらをご覧ください。

2. リスクマネジメント

環境マネジメントシステムの中で事業活動が環境に与える影響を、「法令遵守」と「環境への影響」の2つの観点から毎年評価しています。また、気候変動に関してTCFDの提言を踏まえ、気候関連のリスクと機会のアセスメントを行い、環境管理委員会および代表取締役が議長を務める経営会議で議論しました。これらを通じて、リスクの低減および事業機会の創出に取り組んでいます。

また、リスクマネジメント体制の中で、環境や気候変動以外のリスクも含め包括的なリスクアセスメントを2年に1回実施しています。

▶ リスクマネジメント体制についてはこちらをご覧ください。

3. リスクと機会

TCFD提言の枠組みに従って、代表取締役が議長を務める経営会議で気候変動がもたらすリスクと機会を特定しました。

リスク	シナリオ	取り組み
移行 リスク	<ul style="list-style-type: none"> 法規制の変化により、特定の物質や技術の使用が禁止され、製品供給が困難または高額な代替品が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の統括拠点を中心に品質保証・薬事部門を設置し、専任スタッフが各国の法規制に対応
	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素製品の製品開発に過剰または過少な投資を行い、投資損失または機会損失が生じる 	<ul style="list-style-type: none"> 病院検査室の要求や市場・業界動向を踏まえた製品・技術開発
	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーコストや原材料コストが増大する 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー対策、設備の効率化 再生可能エネルギーの導入
	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の環境意識の変化により、当社製品の環境負荷に対して批判が生じ需要が低下する 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の声を製品開発や品質改善に活用するしくみ（VOC：Voice of Customer）の構築
物理的 リスク	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な自然災害や地域的な水不足により製品やサービスの安定的な供給が困難になる 	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続計画（BCP）を策定し、原材料の調達先や供給体制、輸送ルートなどリスクの分散化を実施
	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な温暖化により安全衛生環境が悪化し従業員の疾病率が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルコンプライアンスコードに「職場の安全・衛生」の確保を明示し、職場巡回によるリスクの把握などさまざまな活動を展開

機会	シナリオ	取り組み
資源の効率	<ul style="list-style-type: none"> より効率的な輸送手段の利用やIoT活用によりオペレーションが最適化される 	<ul style="list-style-type: none"> 物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しや梱包改革によるCO₂削減の推進 ネットワークソリューションCaresphere™などを通じたリモートサービスの提供
エネルギー源	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー化によるエネルギーコストの削減や低炭素エネルギーへのシフトによる社会的評価が向上する 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ対策、設備の効率化 再生可能エネルギーの導入
製品およびサービス	<ul style="list-style-type: none"> 顧客の購入意識の変化により、環境配慮製品の購入が促進される 長期的な疾患動向の変化により新たな検査機会が創出され、検査需要が拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した製品開発 マラリアなどの感染症対策に寄与する製品開発
レジリエンス（回復力）	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害発生時における製品・サービスの安定供給により、顧客からの信頼が向上する 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな供給体制、原材料の複数調達によるバックアップ体制の構築

環境マネジメントシステム

グループ環境マネジメント体制

シスメックスは、グループ各社の責任と役割を明確化した「グローバル環境マネジメント規程」を制定し、常務執行役員が務める環境マネジメントオフィサーの統括・管理の下、環境管理委員会を中心にグループで環境マネジメントに取り組んでいます。環境目標はグループ経営計画の一部に統合し、取締役会の監督と執行役員制度による意思決定スピードを高めた業務執行を行っています。

ISO 14001 認証の取得を推進

シスメックスでは、グループの主要な関係会社において環境マネジメントシステムの国際規格ISO 14001の取得を進めています。2019年4月末現在、グループ16社で認証を取得し、認証取得拠点の売上比率は68%となっています。

また、一部では活動の進捗状況や問題点をグループとして把握しマネジメント活動を強化していくために環境活動を一元化し、シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスRA、シスメックスメディカの4社9拠点で、統合認証を取得しています。この結果、環境経営に関わる情報を体系的に共有することが可能となりました。

ISO 14001 認証取得状況

地域	会社名
日本	シスメックス株式会社、シスメックス国際試薬、シスメックスメディカ、シスメックスRA
米州	シスメックス アメリカ、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス ブラジル
EMEA	シスメックス ヨーロッパ※、シスメックス ドイツ、シスメックス フランス、シスメックス スペイン
中国	シスメックス 無錫、済南シスメックス
AP	シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス インディア、シスメックス ニュージーランド

※ ISO 50001もあわせて取得

環境監査の実施

ISO 14001認証を取得している各拠点では、環境マネジメントシステムの要求事項に従って、「内部環境監査」および「外部環境審査」を定期的の実施しています。

2018年度は、認証統合している国内グループ4社9拠点の内部環境監査で不適合が0件、外部環境審査では軽微な不適合が1件見つかりましたが、是正対応を完了しています。

環境教育

環境教育・訓練の実施

シスメックスでは、グループの環境活動やそれぞれの業務がどのように環境に影響を及ぼすかを周知するための全従業員向け一般教育と、各部門に設定した環境マネジメントシステム推進責任者および推進担当者に対する実務知識習得のための専門教育を実施しています。さらに、各部門で必要に応じて専門教育や緊急事態訓練なども行っています。

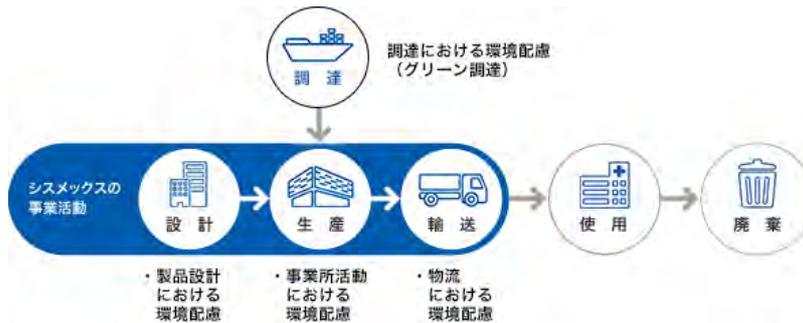
2018年度は、ISO統合認証の適合事業所に所属する全従業員向けのeラーニングによる環境一般教育と、事業所担当者および製品ライフサイクル部門の担当者向けの法規制セミナーを実施しました。

環境（環境への配慮）

製品ライフサイクルにおける環境配慮

製品ライフサイクルと各段階での取り組み

シスメックスでは、製品ライフサイクル全体での環境負荷を低減するよう、あらゆる事業活動の段階で、さまざまな取り組みを実施しています。



- ▶ 事業所活動における環境配慮については、「事業所活動における環境負荷低減：気候変動」「事業所活動における環境負荷低減：資源循環」「事業所活動における環境負荷低減：汚染防止」をご覧ください。
- ▶ マテリアルバランスの詳細については、「環境データ」をご覧ください。

環境に配慮した製品・サービス

製品設計における環境配慮

シスメックスでは、お客様が製品を使用される際のエネルギーや廃棄物の低減に貢献するため、製品ライフサイクルマネジメントに関する規程を制定して、検体検査機器の省電力化、試薬使用量の低減などに向けた技術開発に取り組んでいます。

取り組み事例

方法	取り組みの効果
試薬濃縮化	<ul style="list-style-type: none"> • 容器・包装材料の省資源化 • 検査室で発生する廃棄物の大幅削減 • 重量や容積を抑えることによる輸送効率の向上とCO₂の排出量削減
環境に配慮した原料の使用	環境や安全性に配慮した試薬に切り替えたことにより、廃液の中和剤処理が不要に。

XNシリーズの試薬は従来試薬の25倍濃縮試薬



原料物質の生産における環境配慮

シスメックスでは、天然資源の使用抑制を目指して、診断薬における動物由来原料のタンパク質に関して、遺伝子組み換えをしたカイコによる生産手法を確立しました。従来、これらの原料の生産には多くのエネルギーを消費していましたが、遺伝子組み換えをしたカイコは一般室内飼育が可能であり、容器内で人工餌を与えるだけでよいため、安定供給が図れるとともに、省エネルギーや廃棄物削減も期待できます。

2017年度に発売を開始した試薬「レボヘムPT」の原料にも、カイコから生産したタンパク質を用いています。これは、国産では初めて薬事認証されています。

また、この技術を用いて、2012年度から受託生産ビジネスも本格的に開始しており、すでに多くの製薬企業から注文をいただいています。

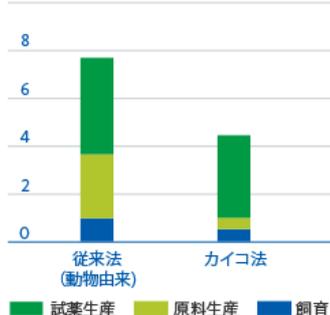


カイコを利用した原料生産

カイコ法使用時における従来法との比較（レボヘムPT）

【CO₂排出量】

((kg-CO₂e/Lot)×10³)



【水資源】

((m²/Lot)×10²)



※ 自社製品による比較（東京都市大学との共同研究による）

環境に配慮した調達（グリーン調達）

取引先と協力して環境に配慮した調達を推進

シスメックスは、調達活動における環境配慮への基本的な考え方として、「グリーン調達基準」を制定しています。

また、毎年各取引先に対して実施しているCSR調査では、環境管理に対する方針の有無、CO₂削減や省エネルギーに関する目標、計画の有無などを確認しています。

▶ 調達方針についてはこちらをご覧ください。

[グリーン調達に関する開示情報の改定・更新履歴 \(PDF形式 / 272KB\)](#)

グリーン調達基準

私たちは、ヘルスケア分野でのグローバルな企業活動を通じて、豊かな健康社会づくりに貢献します。

1. 目的

シスメックスグループは、地球環境保全を進めることにより企業の社会的責任を果たすという環境基本方針を基に、環境に配慮した製品づくりを推進するため、地球環境への負荷が少ない原材料・部品の調達を推進し、環境保全活動に意欲的なサプライヤーの皆様と共に持続可能な社会の発展を目指します。

2. グリーン調達の方針

シスメックスグループは、調達活動における、当社製品の環境負荷を低減することはもとより、サプライヤー様も含めた生産活動を通じた環境負荷を低減するため『グリーン調達』を実施します。グリーン調達の具体的な取り組みとして、以下の2項目を推進します。

- 1) 環境負荷が少ない原材料、部品の調達を推進します。
- 2) 環境保全に意欲的なサプライヤー様との取引を拡大します。

3. 適用範囲

シスメックスグループにおける原材料・部品および製品の調達活動に適用する。

4. 製品使用化学物質の管理

シスメックスグループは、開発・製造する製品に使用する原材料・部品の選定にあたっては、必要な品質・機能・経済的合理性に加え、環境負荷を低減するため、以下に示す化学物質を使用していない原材料・部品を採用するものとします。

- 1) 製品に使用する化学物質の制限で定めている禁止物質を含有していないこと
- 2) 製品に使用する化学物質の制限で定めている化学物質の含有量が把握されていること
- 3) 使用にあたり、化学物質、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染発生等の環境負荷が低いこと
- 4) 資材に関する環境情報を公開していること
- 5) 梱包材についても、上記内容と同様、化学物質の含有量削減等がなされていること

以上

2014年11月改定

1. 環境マネジメントシステムの構築と運用のお願い

シスメックスグループは、お取引を開始するにあたり、環境保全活動に意欲的な取り組みを実践されていることを明らかにしていただくため、第三者による環境マネジメントシステム認証の有無を確認させていただきます。

- 1) ISO14001の認証
- 2) 簡易版の環境マネジメントシステムの認証

2. 原材料、部品の環境情報提供のお願い

シスメックスグループは、シスメックスの環境保全活動にご協力いただくため、サプライヤー様に次に示す環境情報の提供をお願いしております。

- 1) 原材料、部品に含まれる有害化学物質データ
- 2) 欧州RoHS規制物質の不使用証明書
- 3) 欧州RoHS規制に適合した原材料、部品の情報

3. サプライヤー様の外注先様に対する環境対応のお願い

シスメックスグループは、サプライヤー様が取引されている外注先様につきましても、環境マネジメントシステムの構築と環境情報の提供にご協力いただくことをお願いしております。この外注先様につきましては、サプライヤー様が責任を持って管理いただくことをお願いしております。

以上

2014年11月改定

禁止物質、削減物質、対象国を明示

グリーン調達基準に基づき、生産および販売する製品を構成する部品、デバイス、材料などに含有される化学物質（環境負荷物質）への対応について、以下に開示しています。

1. 禁止物質（使用を禁止する物質）2019年5月31日改訂

[禁止物質 \(PDF形式 / 688KB\)](#) 

2. 削減物質（削減を必要とする物質）2019年5月31日改訂

[削減物質\(PDF形式 / 1.3MB \)](#) 

3. 対象国一覧（禁止物質・削減物質の根拠となる環境関連法令対応を意図する国および地域）2019年5月31日改訂

[対象国一覧\(PDF形式 / 285KB \)](#) 

環境に配慮した物流

製品の国内・域間物流のCO₂排出量削減活動

グローバルに事業拡大を続けているシスメックスは、物流の多様化に対応した物流プロセス・体制の見直しおよび梱包改革による、CO₂排出量の削減を進めています。

2018年度の実績

2018年度は、国内外で多くの災害が発生し、緊急の輸配送が多発したことなどにより、CO₂排出量はシスメックス・エコビジョン2025の基準年度である2016年度から1%増加しました。

物流プロセスの見直しによる効果

方法	見直しによる効果
輸送効率化	中国地域、アジア・パシフィックに続き、ドイツに域内物流ハブ倉庫を設置し、同地域向けの輸送を集約することでCO ₂ 排出量を削減
積載シミュレーション	輸送回数を削減するための積載シミュレーションの強化を継続。災害多発による突発的な輸配送が増えたにもかかわらず、コンテナ積載率は64%以上と高い水準を維持

梱包資材の見直しによる省資源化

シスメックスでは省資源のために国内向けの製品輸送にリユース梱包材を活用しています。2018年度は、遺伝子変異解析セットの輸送用に繰り返し利用できる専用箱を導入しました。品質に直結する輸送温度の維持および顧客への配送業務の向上に加え、リユースが可能となり、廃棄物削減による環境負荷の低減にも貢献しています。

遺伝子変異解析セット（がんゲノムプロファイリング検査用）輸送用箱



ダンボール箱



リユース箱

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：気候変動

温室効果ガスの排出量削減

事業所の温室効果ガス排出量の削減活動

各事業所では、直接的または間接的に発生する温室効果ガスの排出量を削減するために、さまざまな活動を進めています。

2018年度の実績

温室効果ガス排出量（連結売上高原単位）は、シスメックス・エコビジョン2025の目標である対基準年度（2016年度）50%削減に対し、21%削減となっています。

温室効果ガス排出量削減の取り組み

取り組み	会社名	内容
省エネ対策	シスメックス株式会社	電力監視システム（デマンド監視機能） ^{※1} の設置による電力使用量の総量把握および管理と、その分析により事業所の特性にあった省エネ対策の実施 <ul style="list-style-type: none"> 夏期・冬期の室温管理の徹底 階段照明などへの人感センサーの設置 省エネ空調設備への更新 LED照明の導入
	シスメックスRA	<ul style="list-style-type: none"> 工場の二重窓化による気密性の向上 空調機の稼働時間見直しによる節電
設備などの高効率化	シスメックス株式会社	ソリューションセンターで、ガスを使用しない高効率型の空調設備への切り替え
	シスメックス アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> 全ての照明をLEDに交換 社用車を燃料効率の良い車両に変更
	シスメックス ヨーロッパ	主要な試薬充填室の照明をLEDに交換
	シスメックス 無錫	保冷库の冷媒を温暖化係数の小さい冷媒に転換
再生可能エネルギーの導入	シスメックス株式会社	アイ スクエアで、太陽光パネルを設置、また作業場所に自然光を採り入れることで使用電力をセーブ
	シスメックス ヨーロッパ	100%再生可能エネルギーの電力を使用
	シスメックス UK	電力の一部に再生可能エネルギーを使用
従業員への啓発	シスメックス マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時にハイブリッド車を使用している従業員に「グリーナーシスメックスポイント」を付与し、エネルギー使用量・CO₂排出量を削減 NGV（天然ガス自動車）のタクシーおよび空港リムジンの利用を奨励
	シスメックス アイノスティクス	通勤時に公共交通機関を利用する従業員への補助
	シスメックス インディア	通勤時に利用している従業員の自家用車は全て、PUC証明 ^{※2} を受けたものであることを確認

※1 24時間連続して最大需要電力（デマンド値）を計測し、設定した目標値を超過しそうになると警報を発信したり、電気の使用状況を日報、月報で報告する機能

※2 PUCとは、Pollution Under Controlの略で、車からの排出ガスが公害規制基準値以下であることを証明するもの。インドでは法律により、半年に1度のPUCテストを受け、PUC証明を受けることが義務付けられている。（新車のPUC証明の有効期限は1年間）

[環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 871KB\)](#)  

国内社用車のCO₂排出量削減

約400台ある国内の社用車の燃料消費量を抑え、CO₂排出量を削減するために、イントラネットを利用して各車両の走行量、使用ガソリン量を「見える化」し、ドライバーの意識向上を図っています。また、低燃費車やハイブリッドカーの導入、社用車の削減も進めています。

2018年度の実績

- 約20台の社用車の削減
- CO₂排出量約10%削減（2017年度比）

関連法規制の遵守

省エネ法に基づき、シスメックス株式会社の年間エネルギー使用量を集計した定期報告書とエネルギー削減計画をまとめた中長期計画書を経済産業省へ提出しています。今後も努力目標達成の維持を目指して、国内グループ全社の省エネルギー活動を推進していきます。

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：資源循環

廃棄物の管理とリサイクル

廃棄物量の削減と安定したリサイクル率の維持

シスメックスは、廃棄物の削減やリサイクル率向上に継続的に取り組んでいます。

2018年度の実績

事業が拡大したことによる事業所拡張、従業員数の増加などにより、廃棄物総量は増加しました。また、環境データ対象範囲の拡大により、リサイクル率は76%と昨年度から13%低下しました。

廃棄物量削減の取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 埋め立て処理していたガラスくずを道路舗装材料へ再生処理するリサイクルである、ガラスくずのマテリアル リサイクルを実施 遺伝子変異解析セット（がんゲノムプロファイリング検査用）の国内向け輸送用箱を、ダンボール箱から繰り返し利用できるリユース梱包箱に切り替え、ダンボール箱の廃棄を削減
シスメックスRA	エタノール再生装置を導入し、排出後、焼却処理されていた廃エタノールの排出量を約7分の1に削減
シスメックス マレーシア	ダンボール箱、プラスチック材料のリサイクルおよび慈善団体への寄付
シスメックス 無錫	購買品の包装用PE袋を生活用ごみ袋として再利用

環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

水資源の有効利用

水使用量削減と適切な排水処理

シスメックスは中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用するなど、事業活動の中で上水や地下水を使用しています。そのため、水使用量の削減を重要な社会的責任の一つと位置付けて、シスメックス・エコビジョン2025で水使用量の削減目標を設定し、各拠点で水の使用効率を高めるなどの取り組みを進めています。

2018年度の実績

水使用量原単位は、シスメックス・エコビジョン2025の目標に対し、基準年度（2016年度）排出量（連結売上高原単位）から7%削減となっています。

各事業所の主な取り組み

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	生産効率の改善を進め、工数削減を図るとともに、水使用量を低減
シスメックス アジア・パシフィック	<ul style="list-style-type: none">超純水プラントを改良し、工場が稼働していない時間帯を利用してRO水（純水）排水をリサイクル水使用量削減のために原水脱気装置を設置
シスメックス インディア	浄化処理後の工場排水をリサイクルし、工場内の緑地へ引いて水やりを使用

環境データの詳細についてはこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

紙使用量の削減

資料の電子データ化を推進

シスメックス株式会社ではパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどを活用した電子データの送受信でペーパーレス化に取り組んでおり、それによって業務効率の向上と紙使用量および廃棄量の削減を実現しています。

電子データを会議参加者に事前配布することで議案についての確認・検討が可能となり、その結果、会議の効率が向上しただけでなく時間の短縮にもつながっています。保存を前提とした紙の資料を使わないことは社内情報が漏えいするリスク低減にもつながります。シスメックス コリアでは、稟議承認のためのシステムを2017年に導入し、年間2万枚の紙を削減することができました。さらに、サプライヤー様向けの製品部品図面を、紙ではなく電子データで提示することでも紙使用量を削減しています。

環境（環境への配慮）

事業所活動における環境負荷低減：汚染防止

化学物質管理

有害物質の貯蔵・使用状況の把握と管理

シスメックスでは製品の研究開発や生産工程で化学物質を扱っています。そのため紛失・漏えいの防止はもちろん、現場で作業に従事する従業員に健康被害が及ばないように化学物質の適正管理に努めています。

有害物質の管理方法

会社名	取り組み
シスメックス株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 薬品管理委員会を設置し、薬品事故の低減、関連部門への教育など、管理体制を強化 学術実験室において「学術本部実験室管理基準」に基づき薬品管理を徹底
シスメックス国際試薬	IDカードや指紋認証により、登録者以外の劇物危険物保管庫への入室を禁止

有害廃棄物の排出・排水、大気への排出に関する管理・処理

有害廃棄物の管理・処理

生物由来の物質による万が一の感染の危険性に備え、マニュアルに基づいて保管・使用場所を制限するなど厳重に管理するとともに、一般廃棄物とは厳格に分別して適切に処理しています。

また、その他の有害物質についても、飛散の抑制、流出や地下浸透がないように設備・管理手法の両面から対策を講じ、排出を法規制の基準値以下に抑えるよう努めています。

排水管理・処理

シスメックスでは水質の保全を重視し、化学物質を扱う開発拠点や工場からの排水で河川や地下水に影響が及ばないように独自の排出基準を設定し、管理しています。

排水管理・処理方法

会社名	方法
シスメックス国際試薬	小野工場でBOD（生物化学的酸素要求量）の基準値を超えた場合にアラーム（警報）を発出するシステムを導入し、有機物を含む廃液の流出を未然防止
シスメックスRA	廃液処理装置を導入し、感染性廃液を加熱滅菌で無害化して直接下水へ排出
シスメックス アメリカ	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液からホウ素含有物を除去
シスメックス アジア・パシフィック	排水処理システムを導入し、試薬製造時に発生する廃液を下水道に排出する前に浄化

大気への排出に関する管理・処理

国内のグループ会社では、2015年4月1日に改正施行されたフロン排出抑制法に対応するために、各社で対応手順マニュアルを作成し、所有・管理するフロン含有機器の明確化、適切使用、点検の実施、算定漏えい量の把握を実施しています。

生物多様性保全

生物多様性との関わり

シスメックスでは、中核事業の一つである試薬生産において水を原料として使用しており、また他にも事業活動を行うにあたり地球上の生物から多くの恩恵を受けています。そのため、地域の水源涵養に寄与する森林の保全を重要な社会的責任の一つと位置付けるとともに、生物多様性保全への貢献を目指しています。

- ▶ [診断薬における動物由来タンパク質原料（遺伝子組み換えカイコ）の切り替えについてはこちらをご覧ください。](#)

森林保全活動

「シスメックスの森」を通じて、生物多様性保全に貢献

2013年度から、兵庫県が推進する「新ひょうごの森づくり」活動の趣旨に賛同し、森林整備活動をスタートさせました。試薬工場が立地する兵庫県小野市にある「かわい快適の森」（17ヘクタール）のうち、約2ヘクタールを借り受けて「シスメックスの森」と名付け、従業員ボランティアによる間伐作業などを実施し、「人といきものがともに憩える里山づくり」を目指しています。

2018年度は、14回の活動を実施し、延べ171名が参加しました。

「シスメックスの森」での取り組み

取り組み	内容
生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none">• 絶滅危惧種の保全（カスミサンショウウオ^{※1}の生育環境の保全、アサギマダラ^{※2}を呼ぶための植物の植え付けなど）• 希少な野生植物の保存（ササユリの栽培による種の回復、キンラン^{※3}生息地の保護）
教育・啓発	<ul style="list-style-type: none">• 子どもたちが自然との触れ合いを楽しめるプログラムを実施（森林観察会の実施や挿し木、野菜やシイタケ栽培など）• 環境省・農林水産省・国土交通省が主唱する「グリーンウェイブ2018」に登録（国連による「国際生物多様性の日」（5月22日）への参加呼びかけ）

※1 環境省レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている小型のサンショウウオ

※2 その多くが春に日本に飛来し、秋には台湾など南方に約2,000kmもの長距離を移動する珍しい渡り蝶。千葉県のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されている。

※3 環境省レッドリストで絶滅危惧種Ⅱ類に指定されている。

- ▶ [従業員ボランティアを促進するための制度についてはこちらをご覧ください。](#)
- ▶ [「シスメックスの森」についてはこちらをご覧ください。](#)



シスメックスの森（森林整備活動の参加者）



シスメックスの森（アサギマダラ飛来地を目指したフジバカマ栽培）

その他地域での活動

会社名	活動内容
シスメックス ヨーロッパ	試薬生産工場の敷地内で、昆虫の餌となる自生種の種まきを実施
シスメックス スペイン	再生可能エネルギーの推進と環境保全のため、バイオマスエネルギーのプロジェクトに参画
シスメックス ニュージーランド	モタブ島での植樹ボランティアデーに参加し、300本以上の植樹を実施
シスメックス インディア	世界環境デーの活動として従業員による110本の植樹を実施
シスメックス タイ	乾燥地への送水と洪水防止のために竹を使用した砂防ダムを建設



ニュージーランドでの植樹活動



インド試薬生産工場による植樹活動

グループ方針

「正々堂々とした事業活動」を追求

シスメックスは、グループ企業理念である「Sysmex Way」に基づき、コンプライアンスを「法令遵守とともに高い倫理観にもとづいた正々堂々とした事業活動を行うこと」と定義し、グループの全役員・従業員が遵守すべき特に重要なルールや行動のガイドラインをまとめた「グローバルコンプライアンスコード」を制定しています。「グローバルコンプライアンスコード」は、日本語だけではなく、英語をはじめとした多言語に翻訳されています。

▶ [グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。](#)

グローバルコンプライアンスコード（概要）

1. お客様への安全と安心の提供

私たちは、全ての企業活動において、お客様への安全と安心の提供を優先して行動します。

2. 公正な取引と自由な競争の推進

私たちは、公正で自由な競争の推進に関する各国・地域の法令等を遵守し、お客様をはじめとした全ての取引先と公平かつ公正に接し、適切な条件で取引を行います。また、同業他社との関係においては、相互間での不当な取引制限や相手を貶める不正な行為を行いません。

3. 公平・適正な情報開示と情報管理の徹底

私たちは、グループの経営状況や事業活動などの企業情報を、各国・地域の関連する法令等に従い、公平、迅速、正確に、かつわかりやすく開示するとともに、事業活動を通じて収集された営業秘密は、第三者に不利益を与えることのないように厳重に管理します。

4. 適正な研究開発活動の実施

私たちは、研究開発を行うにあたっては、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令等を遵守するとともに高い倫理観をもって活動を行います。

5. 知的財産権の尊重

私たちは、グループの知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重し、不正な方法で第三者の成果や営業秘密を手したり、自らの業務に利用したりいたしません。

6. 国際的な平和と安全の維持

私たちは、各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引には関与しません。

7. 適正な会計処理と納税の実施

私たちは、租税に関連する法令その他各国・地域の経理関連法令等を遵守し、常に適切な税務処理と適正な会計処理を行います。

8. 人権の尊重と安全・衛生の向上

私たちは、世界人権宣言、ILO 中核的労働基準等の人権に関する国際基準を支持し、一人ひとりの基本的人権を尊重し、差別や嫌がらせ等の行為を行いません。また、各国・地域の労働関連法令等を遵守し、職場の安全・衛生に努めるとともに、不当な労働を強制しません。

9. 公私のけじめと利益相反行為の禁止

私たちは、職務遂行において自己の利益を図ることはもちろん、グループの資産や物品および情報などの不正利用や、グループの事業活動に不利益を及ぼす個人的な行為を行いません。

10. 社会との健全な関係の保持

私たちは、贈収賄禁止に関連する各国・地域の法令等を遵守するとともに、政治献金を行う際は、関連法令等を遵守し厳正に対応します。また、反社会的な活動や勢力に対しては毅然とした態度で臨み、一切関係を持ちません。

11. 地球環境の保護

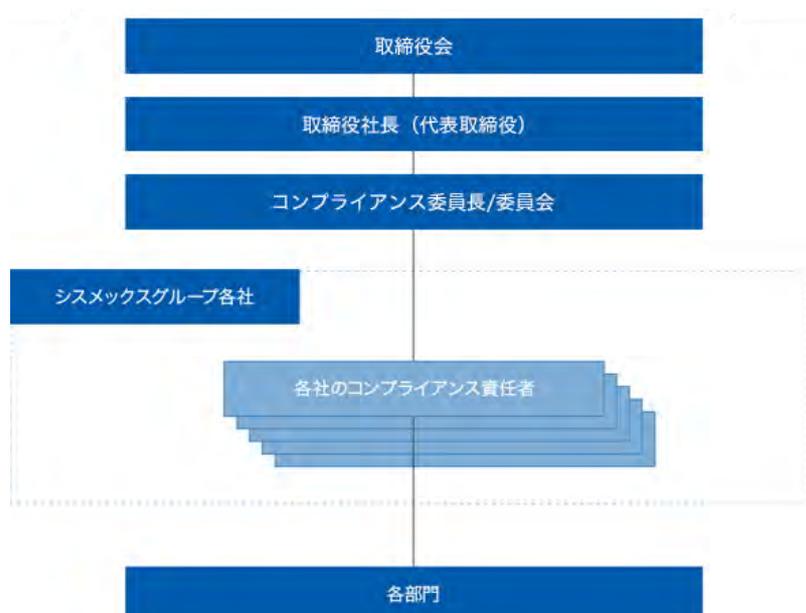
私たちは、環境関連法令等を遵守するとともに、各国・地域の環境に関する国際基準等にもとづき、事業活動全般において環境に配慮した取り組みを行い、地球環境の保護と向上に努めます。

コンプライアンス推進体制

シスメックスでは、コンプライアンスに関する社内ルールの整備や従業員のコンプライアンス意識の向上などに取り組んでいます。

コンプライアンス委員会の委員長はグループのコンプライアンス統括責任者として、グループ全体のコンプライアンスを推進しています。また、グループ各社にもコンプライアンス責任者を設置し、各社でコンプライアンスを推進しています。

コンプライアンス体制

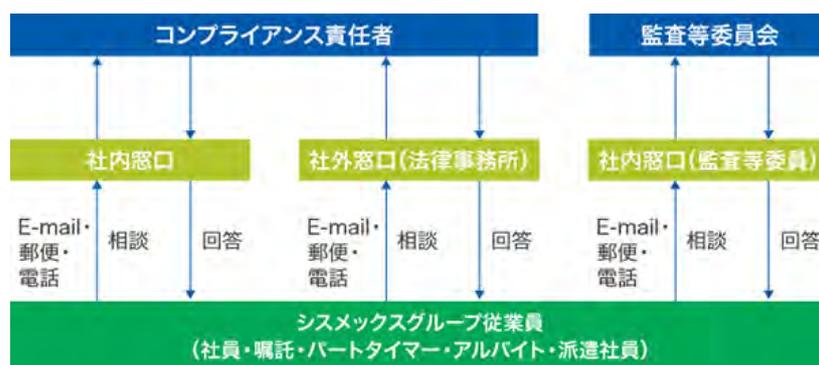


内部通報制度

シスメックスでは、全グループ会社で内部通報制度を設置し、運用しています。

国内においては、内部通報制度「カンパニユラライン」を設置し、贈収賄や人権侵害などを含むコンプライアンス上の問題に関する相談を受け付け、早期に解決を図るようにしています。「カンパニユラライン」では、社内・社外の2つの窓口で、電子メール、郵便、電話による相談や通報を受け付けています。さらに経営陣に関する相談・通報のために監査等委員による窓口も設けています。寄せられた情報は匿名で取り扱い、公益通報者保護法に基づき、相談・通報者が不利益を受けないよう保護しています。

内部通報制度「カンパニユライン」



海外においては、相談・通報窓口は各国の言語に対応しています。

2018年度は国内・海外合わせて14件の相談が寄せられ、それぞれの相談案件に対し、事実調査を行った上で適切に対処しました。

コンプライアンス教育

コンプライアンス教育を継続して実施

シスメックスではコンプライアンスを徹底するために、従業員などへの教育・啓発活動をコンプライアンス推進のベースと位置付け、グループのコンプライアンス研修プログラムに基づき、各種のコンプライアンス教育を継続的に実施しています。新入社員教育、階層別教育などの機会を捉え、グローバルコンプライアンスコードに則った行動の浸透を図っています。また、公正な取引の促進、贈収賄・インサイダー取引・差別嫌がらせの禁止など、グローバルコンプライアンスコードを詳しく解説したガイドブックなどの教育ツールの充実を図り、各部門、各社での自主的かつ計画的な教育・啓発活動を推進するなどしてコンプライアンス意識の浸透・徹底を図っています。

2018年度の主なコンプライアンス教育実績

(国内)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- 新任係長を対象にコンプライアンス研修を実施
- 国内グループ従業員を対象に企業秘密管理に関する研修を実施
- 新入社員、中途採用者、新任役職者を対象にLGBT[※]を含むハラスメント、労務管理、労働者派遣法に関する人権研修を実施
- 公正な取引を推進するためのシスメックス プロモーション コード研修等を実施
- 医療機関等との関係の透明性確保のための法令・業界ルールに関する研修を実施

※ レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとった性的マイノリティの総称

(海外)

- 新たに入社した従業員へコンプライアンス研修を実施
- 管理職に対するコンプライアンス研修を実施
- 欧州GDPR (EU一般データ保護規則) に関する研修を実施
- 公正な取引を推進するための医療機器業界ルールに関する研修を実施

コンプライアンス

コンプライアンス推進の取り組み

▶ [グローバルコンプライアンスコード全文についてはこちらをご覧ください。](#)

腐敗防止

贈収賄防止に関する基準整備、教育実施

シスメックスは、企業の自発的取り組みとして国連が提唱するグローバル・コンパクトの趣旨に賛同し、その10原則の一つである「企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである」に基づき、腐敗防止の徹底を図っています。

世界的な腐敗行為撲滅への機運が高まり、各国の法整備・執行強化が進む中、シスメックスでは、全役員・従業員に適用するグローバルコンプライアンスコード「10.社会との健全な関係の保持」にて贈収賄行為を明確に禁じることに加え、贈収賄防止のための規程において、禁止行為、デューデリジェンス・教育の実施、管理体制などについて定め、グループ内へ周知徹底しています。さらに、各地域固有の法規制・商慣習等に応じた贈収賄防止の取り組みのため、各地域で規程を整備し、遵守を推進しています。

贈収賄防止規程の概要

- シスメックスは、事業の獲得または事業上の便宜の獲得[※]を目的とするなど、不正の利益を得るために提供する金銭その他の有形・無形の一切の利益を、公務員に対してのみならず、公務員以外に対しても提供することを禁止する。
- シスメックスは、新規取引を行う際、および合併・買収を行う際は、事前に相手先の身元、素性、事業内容などの通常の調査を実施するのみならず、公務員などとの関係、過去における贈収賄事案への関与の有無などの調査を実施する。
- シスメックスは、取引先などに対する支払いが、賄賂、またはその疑いがある場合には、その支払いを禁止する。
- シスメックスは、グループの役職員を対象とする、贈収賄防止に関する教育・研修を定期的に行う体制を整備し、実行する。
- この規程への違反または違反が疑われる事象については、速やかにコンプライアンス責任者に報告しなければならない。

※ 行政手続きを回避・簡略化する、取引機会を取得・維持する、入札の際の便宜を得る、機密情報を取得することなどを指す。

医療機関等との関係の透明性確保

シスメックスでは、研究開発から生産、販売、サービス&サポートにいたるまでの全ての段階で医療機関・医療関係者の皆様と連携する機会が増えており、高い倫理観に基づいて取引を行う必要があります。

日本では、一般社団法人日本臨床検査薬協会が制定された「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」の理念を踏まえ、会員企業であるシスメックス株式会社、シスメックス国際試薬もその趣旨に賛同し、医療機関等への資金提供等に関する情報を公開しています。

米国・フランス・ベルギーでは、企業に対し医療機関との関係の透明性確保を求める法律（サンシャイン法）が制定されており、対象となる医療機関等への資金提供等に関する情報を各国当局に報告・公開しており、当社ウェブサイトにも当局サイトで公開されている情報を公開しています。

- [医療機関などへの資金提供に関する情報（ガバナンスデータ）](#)
- [医療機関などへの資金提供に関する情報（日本地域詳細）](#)

▶ [一般社団法人日本臨床検査薬協会「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」はこちらをご覧ください。](#)

研究倫理

適正な研究開発活動の実施

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4.適正な研究開発活動の実施」において、遺伝子その他研究開発における被験者のプライバシーを保護するなど、被験者の尊厳および人権を守り、各国・地域の関連する法令などを遵守するとともに高い倫理観をもって研究開発を行うことを定めています。また「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」を定め、法律・科学の専門家などの社外委員をメンバーに含む「研究倫理審査委員会」を設置し、研究内容を審査しています。委員名簿や審査結果は当社ウェブサイトで公開し、透明性を確保しています。

- ▶ 「臨床研究開発及びヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理規程」についてはこちらをご覧ください。 [📄](#)
- ▶ 研究倫理審査委員会の活動についてはこちらをご覧ください。

動物実験に対する配慮

シスメックスは、グローバルコンプライアンスコードの「4-4 動物実験」に定めているとおり、動物愛護に関する各国・地域の法令などを遵守し、代替法の使用を優先的に検討した上で必要最小限にとどめるとともに、苦痛を軽減するよう十分配慮し、動物実験を行っています。動物実験は公的な指針に準拠した社内規程に従って実施され、「実験管理委員会」により実験計画が規程に準拠しているかを厳格に審議しています。

準拠している指針

- 動物の愛護及び管理に関する法律（環境省）
 - 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（環境省）
 - 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）
 - 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議）
- ▶ 遺伝子組み換えカイコによる動物由来タンパク質原料からの切り替えについてはこちらをご覧ください。

公正なマーケティング活動

グローバルでのプロモーション活動においては、グローバルコンプライアンスコード「2. 公正な取引と自由な競争の推進」でマーケティングにおける倫理コードを制定しており、世界各地域において、業界基準や自社で制定した基準に基づいた公正なマーケティング活動を推進しています。

日本における活動については、「シスメックスプロモーションコード」を制定しています。2018年度は、日本・東アジア地域の営業部門155名に対し、「医薬品等適正広告基準」「医療用医薬品監視モニター制度」などについて研修を実施しました。

[シスメックスプロモーションコードについてはこちらをご覧ください。\(PDF形式 / 314KB\) 📄](#)

シスメックスプロモーションコード

1. シスメックスの責務
2. 行動基準
3. 公正な競争及び公正な取引の確保
4. 広告宣伝（プロモーション用印刷物及び広告等の表示）
5. 中傷・誹謗行為の禁止
6. 不公正な比較表作成の禁止
7. 役務の提供

税務戦略

シスメックスは、税の透明性の向上を図るため、グローバルコンプライアンスコードにおいて「7.適正な会計処理と納税の実施」を定めています。その中で、国外関連者との取引に関しては、OECDガイドラインや各国の移転価格税制などに準拠した適切な移転価格を算定することや、恣意的な租税回避を目的としたタックスヘイブンの利用は行ってはならないことを定めています。

また有価証券報告書などにおいて、グループとしての法人税の納税額を開示するとともに、法定実効税率との差異要因についても開示しています。

- ▶ 有価証券報告書はこちらをご覧ください。
- ▶ Sysmex Report (Financial and Other Information)はこちらをご覧ください。

英国における税務戦略（英語のみ）

英国における税務戦略についてはこちらをご覧ください。（英語のみ）（PDF形式 / 26KB）[📄](#)

知的財産権の尊重

シスメックスは、自社の知的財産権と同様に第三者の知的財産権を尊重しています。不正な方法で第三者の成果や営業秘密を入手したり、自らの業務に利用したりしないことを、グループの全役員・従業員が遵守すべきルールとして、グローバルコンプライアンスコード「5.知的財産権の尊重」に定め、このルールの周知徹底を図っています。また、新製品開発においては、知的財産部門、研究開発部門、事業推進部門などのメンバーがグローバルにパテントレビューを実施し審議しています。

安全保障貿易の推進

シスメックスではグローバルコンプライアンスコード「6.国際的な平和と安全の維持」で各国・地域の輸出関連法令等を遵守し、国際的な平和と安全の維持を阻害する恐れのある取引に関与しないことを定めています。不正輸出を防止するため社長直轄の安全保障貿易管理委員会を設置しています。さらに、海外の統括現地法人にも安全保障貿易の管理担当者を置き、グローバルでの運営体制を構築しています。また、年1回、全社員を対象とする基礎的なeラーニングのほか、最新の世界情勢および法規制に関する講習会などさまざまな教育を継続的に実施し、安全保障貿易管理に対する意識向上を図っています。

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

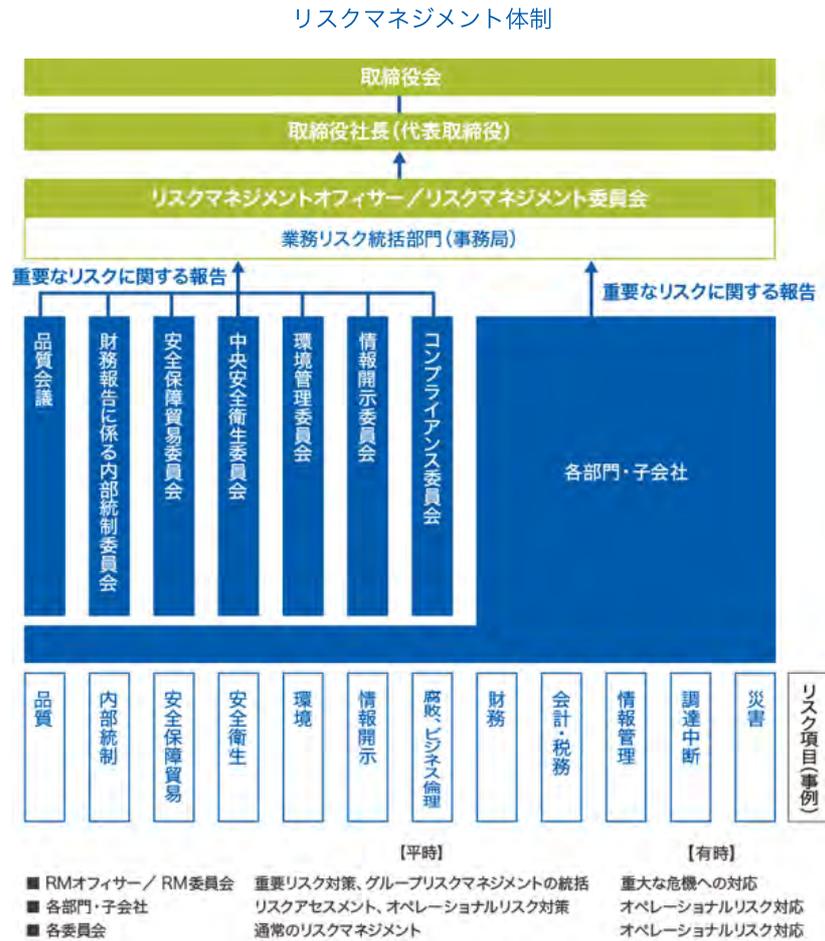
リスクマネジメント体制

委員会を設置してリスクマネジメントを推進

シスメックスでは、グループ全体のリスクマネジメント活動を統括する組織として、「リスクマネジメント委員会（RM委員会）」を設置し、委員長をリスクマネジメントオフィサーである専務執行役員が務めています。

RM委員会では、腐敗やビジネス倫理などのコンプライアンス、人材、労働安全衛生、環境、納税を含む会計・財務などさまざまなリスクについて定期的に評価を行い、グループとして事業に与える影響が大きなリスクを特定して対策を講じています。

また、RM委員会では、コンプライアンス委員会などの関連委員会および各部門・関係会社を実施するリスクマネジメントの状況をモニタリングするとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクが発生した場合は、その対応について審議するなど、継続的にPDCAを回しています。



▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

リスクマネジメント 災害対策

災害時に備えた対応（BCP）

シスメックスでは、地震や津波などの大規模災害が発生した際にも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、生産、調達などの機能ごとに事業継続計画（BCP）を策定して非常時に備えています。BCPでは、危機発生時にも医療機関において当社製品が安定して稼働し続けられるように、供給を優先すべき重要製品を選定しています。また、災害対策基本規程等の災害対応に関する規程やマニュアルを整備し、緊急時に迅速に対応できる体制を整え、災害発生を想定した模擬訓練も定期的を実施しています。

試薬製品に関しては、主要な原材料の調達先の複数化や地産地消の考えに基づいた生産場所の選定によりリスクの分散を図るとともに、非常時における工場間の相互供給体制の構築、輸送面での代替ルートの確保などを実施しています。2018年度に発生した西日本豪雨、北海道胆振東部地震時にも早期に影響を把握し、対策を取ることができました。

緊急連絡手段としては、「安否確認ツール」を国内グループ会社に導入し、グループ間での安否確認を迅速に行える体制を整えています。また、国内グループ間の各事業所にはデジタル無線機を設置し、通信途絶の際にも連絡が取れる手段を確保し、備蓄品および帰宅支援品も人数分備えています。また、eラーニングによる防災／災害時対応およびBCP周知教育や模擬訓練などを通じ、BCPの実効性向上を図っています。

グループのIT基幹システムについては、災害などに強い社外データセンターに配置するとともに、万一災害などの発生時に通常稼働しているシステムがダウンした場合でも、速やかにバックアップシステムへ移行できるシステム基盤を構築しています。

情報セキュリティ

情報セキュリティの強化

シスメックスでは、お客様にご使用いただく製品・サービスに対してのサイバーセキュリティ対策に取り組んでいます。グループ全体で、製品セキュリティポリシーを定め、当社製品の設計・製造および市販後のリスク管理への取り組みを開始しています。

また、お客様や研究開発などの実験にご協力いただいた方々からお預かりしている情報や自社の技術情報など、重要な企業秘密を保持していることから、企業秘密の漏えいをグループにとって重要なリスクの一つと捉え、その顕在化防止に取り組んでいます。グループ共通の情報セキュリティや企業秘密に関するグローバル規程を策定し、情報の外部漏えい防止、サイバー攻撃などへの対策を強化しています。また国内グループ会社では、定期的に情報セキュリティと企業秘密に関するeラーニングを実施しています。

スカイフロントリサーチキャンパスにおいては、遺伝子配列等の個人情報を用いた研究ができるよう、情報セキュリティの強化を行っており、2019年に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に関する国際規格ISO 27001の認証を取得しました。シスメックスCNAにおいても、サービス・サポート部門において認証を取得し、取り扱う情報の機密性・完全性・可用性を確保しています。

社外からのCSR評価

CSR関連インデックスなどへの組み入れ

世界的なサステナビリティインデックスに選定

財務的な視点に加え、環境・社会・ガバナンス（ESG）の非財務の視点から企業の持続可能性（サステナビリティ）を評価し、長期的視点で投資を行う責任投資が拡大しています。その責任投資の指標として、世界ではさまざまなサステナビリティインデックスが利用されています。シスメックスは持続可能性が高い企業として、多くのサステナビリティに関連するインデックスに選定されています。

- Dow Jones Sustainability World Index^{※1}（2016年度より）
- Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index^{※1}（2012年度より）
- FTSE4Good Index^{※2}（2008年度より）
- FTSE Blossom Japan Index^{※3}（2017年度より）
- MSCI ESG Leaders Indexes^{※4}（2011年度より）
- MSCI SRI Indexes^{※4}（2013年度より）
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数^{※5}（2017年度より）
- MSCI日本株女性活躍指数^{※6}（WIN）（2017年度、2019年度）
- Ethibel Excellence^{※7}（2011年度より）
- Ethibel Pioneer^{※7}（2014年度より）
- Ethibel Sustainability Index（ESI）^{※8}（2015年度より）
- Global 100（世界で最も持続可能な100社）^{※9}（2017年、2016年、2012年）
- Euronext Vigeo Eiris World 120 Index（2018年度）^{※10}
- SNAMサステナビリティ・インデックス（2018年度より）^{※11}

※1 米国のS&P Dow Jones Indices社とスイスのRobeco SAM社が共同開発したESG投資インデックス。企業のサステナビリティを「経済・環境・社会」の側面から評価し、総合的かつ先進的な取り組みを行っている、長期にわたり持続的な成長が期待される企業を選定している。World Indexは、世界の上場企業が対象。Asia Pacific Indexは、アジア太平洋地域の上場企業が対象。

※2 英国ロンドン証券取引所グループのFTSE Russell社が発表しているESG投資インデックス。世界主要企業の一般に公表されている情報のみを用いたESG評価に基づいて、優れた企業を選定している。

※3 英国のFTSE Russell社が、ESGについて優れた対応を行っている日本企業を選定している。国連の持続可能な開発目標（SDGs）を含む国際基準から導出されたFTSE4Goodの組み入れ基準を活用している。

※4 米国モルガンスタンレーグループのMSCI社（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル社）が開発したESG投資インデックス。評価対象企業の産業の特徴を踏まえ、各インデックスの重要度の高いESG課題に絞り込んだ評価に基づいて企業を選定している。

※5 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中でESG格付けが相対的に高い企業を選定している。

※6 米国MSCI社のESG投資インデックスの一つ。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業を選定している。

※7 ベルギーの非営利団体Forum Ethibelが開発した投資インデックス。企業の社会的責任の観点から高いパフォーマンスを示している企業を選定している。PioneerとExcellenceの2種類があり、Excellenceに選ばれた企業の中から、さらに優れた企業がPioneerに組み入れられる。

※8 Ethibel Excellenceに選ばれた企業の中から、浮動株時価総額などの制約条件に基づいて、構成されているインデックス。

※9 カナダのコーポレート・ナイツ社が選出する、持続可能性の高い企業上位100社。世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）にあわせて毎年発表される。

※10 米国や欧州で多数の証券取引所等を運営するNYSE Euronext社（米国）とESG調査会社であるVigeo Eiris社（フランス・英国）が提携して開発した指数で、欧州・北米・アジアパシフィック地域における、ESGの取り組みに優れた企業上位120社が選定される。

※11 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社が設定するインデックス。ESGの取り組みに優れた企業約300銘柄が選定される。

MEMBER OF
Dow Jones
Sustainability Indices
 In Collaboration with RobecoSAM



外部からの評価、表彰

2016～2018年度 実績

2019年

- 5月 • FOCUS-Businessが主催する「Top Employer SME 2019」医療機器カテゴリーにて8位に選定
- 4月 • Quest Diagnostics社が主催する「Supplier Excellence Awards」を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • NZHIT イノベーションアワードのファイナリストに選定（シスメックス ニュージーランド）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll[※] 2019」に選出（シスメックス アメリカ）
 ※ 従業員とその家族、地域社会の幸福に寄与している企業を選出する企業ランキング。NPO「Center for Companies That Care」の調査による。
- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の3回目の選定
- 2月 • 平成30年度 第22回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第22回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2018」）

2018年

- 12月 • 第6回WICIジャパン統合報告優良企業賞「統合報告奨励賞」を受賞
- 11月 • 平成30年度 近畿地方発明表彰を受賞
- 11月 • Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2018」にて9位に選定
- 10月 • シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2018」に選定
- 10月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」（韓国トップ100）に選定（シスメックス コリア）
- 5月 • 平成30年春の褒章において「紫綬褒章」を受章
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2018」に選出（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の2回目の選定
- 2月 • 平成29年度 第21回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第21回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2017」）

2017年

- 11月 • 超解像蛍光顕微鏡が「2017年度 グッドデザイン金賞」を受賞
- 11月 • Harvard Business Reviewが発表する「The Best-Performing CEOs in the World 2017」にて18位に選定
- 10月 • シスメックス アジア・パシフィックが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2017」に選定
- 8月 • 「Forbes The World's Most Innovative Companies 100社（27位）」に選定
- 6月 • 「Work & Family in 2017」を受賞（シスメックス ヨーロッパ）
- 4月 • 平成29年度文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2017」に選出（シスメックス アメリカ）
- 2月 • 経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人～ホワイト500～」の認定
- 2月 • 平成28年度 第20回環境コミュニケーション大賞 優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）受賞（「シスメックス あんしんレポート 2016」）
- 1月 • 2017年版「Global 100」（世界で最も持続可能な100社）に3回目の選出

2016年

- 11月 • 平成28年度近畿地方発明表彰において、「文部科学大臣賞」1件と「発明奨励賞」3件を受賞
- 11月 • シスメックス アジア・パシフィック、シスメックス マレーシアが「HR Asia Best Companies to Work for in Asia 2016」に選出
- 10月 • 日経「人を活かすランキング」にて27位/462社
- 9月 • 女性活躍推進法「えるぼし」（最高位の3段階目）認定
- 9月 • 当社の自動血液凝固測定装置が「第5回分析機器・科学機器遺産」に認定
- 9月 • Forbes Japanの「日本を動かす経営者」で5位、「世界で最もイノベティブな企業」28位にランキング
- 8月 • 「世界初・糖鎖を使った肝線維化診断システムの実用化」において、第14回産学官連携功労者表彰「経済産業大臣賞」を受賞
- 6月 • シスメックス国際試薬 小野工場が小野市防火協会優良事業所賞表彰
- 5月 • Confirmit社「ACE-Award」（Voice of Customer部門、Contact Center部門）を受賞（シスメックス アメリカ）
- 3月 • 働きがいのある会社「Great Place to Work」に選定（シスメックス ヨーロッパ）
- 3月 • 「Companies That Care Honor Roll 2016」に選出（シスメックス アメリカ）

環境データ

マテリアルバランス

INPUT			
	2016年度	2017年度	2018年度
 電気使用量 (千kWh)	37,403	39,701	41,959
 都市ガス (千m ³)	1,474	600	1,097
 LPG (t)	21	24	19
 LNG (t)	0	0	57
 重油 (kL)	0	35	0
 灯油 (kL)	31	29	29
 軽油 (kL)	21	17	38
 国内社用車ガソリン (kL)	734	689	619
 国内社用車軽油 (kL)	25	23	18
 水使用量 (千m ³)	406	418	449
 OA用紙 (t)	42	45	38
 PRTR (t)	0	0	0



OUTPUT			
	2016年度	2017年度	2018年度
 温室効果ガス排出量 (事業所) (t-CO ₂)	22,760	22,187	22,349
 温室効果ガス排出量 (国内社用車) (t-CO ₂)	1,768	1,661	1,483
 廃棄物等総排出量 (t)	2,106	1,482	2,255
 リサイクル率 (%)	91	89	76
 水排出量 (千m ³)	189	273	292
 PRTR (t)	0	0	0

詳細はこちらをご覧ください。(PDF形式 / 871KB) [📄](#)

シスメックス・エコビジョン2025 長期環境目標に関するデータ

目標		2017 年度	2018 年度	原単位・算定方法など
CO ₂ 排出量の削減※	機器製品使用時において15%削減	+1%	+3%	機器製品使用時におけるCO ₂ 総排出量÷機器生産台数
	事業活動において50%削減	-17%	-21%	事業活動におけるCO ₂ 総排出量÷連結売上高
	出荷物流において15%削減	-17%	+1%	出荷物流におけるCO ₂ 総排出量÷シスメックス単体売上高
水消費量の削減※	機器製品使用時において15%削減	+1%	+3%	機器製品使用時における総排出量÷機器生産台数
	事業活動において15%削減	-8%	-7%	事業活動における水の総使用量÷連結売上高
資源循環の推進	事業活動においてリサイクル率93%以上	89%	76%	リサイクル排出量÷総事業活動における廃棄物総排出量

※ 基準年度を2016年度とする原単位目標

▶ [非財務目標はこちらをご覧ください。](#)

環境パフォーマンスデータ

項目	内容		単位	対象範囲 <small>(※1)</small>	
INPUT	エネルギー消費量	非再生可能エネルギー消費量	電力(非再生可能)	千kWh	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
			都市ガス	千m ³	
			LPG	t	
			LNG	t	
			重油	kL	
			灯油	kL	
		軽油	kL		
	再生可能エネルギー消費量	電力(再生可能)	千kWh		
	総消費量		GJ		
	その他非再生可能エネルギー消費量	ガソリン(社用車)	kL	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所	
軽油(社用車)					
水使用量	地下水	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
	水道				
	総使用量				
OA用紙使用量		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場		
PRTRインプット		t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
OUTPUT	温室効果ガス排出量 スコープ1 <small>(※3)</small>	固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所 ただし、社用車は日本国内に限る	
		社用車からのCO ₂ 排出量			
		総排出量			
	温室効果ガス排出量 スコープ2 <small>(※3)</small>	総排出量	t-CO ₂	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所	
	温室効果ガス排出量 スコープ3 <small>(※3)</small>	物流におけるCO ₂ 排出量	t-CO ₂	シスメックス株式会社	
	廃棄物の排出量	総排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場	
		総排出量(国内営業拠点含まない)			
		マテリアルリサイクル廃棄物			
		リサイクル(エネルギー回収を含む)廃棄物			
		総廃棄物処分量			
マテリアルリサイクル率		%	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場		
リサイクル率(エネルギー回収を含む)					
水排出量	総排出量	千m ³	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所		
PPTRアウトプット	排出量	t	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所		
	移動量				

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	カバー率 ^(※2)	算定方法など
	35,779	37,233	37,193	38,399	40,670	85%	
	852	1,544	1,474	600	1,097		
	15	19	21	24	19		
	0	0	0	0	57		
	0	0	0	35	0		
	70	35	31	29	29		
	19	19	21	17	38		
	209	243	210	1,302	1,288		
	395,043	439,654	440,124	414,136	461,370		
	778	750	734	689	619	37%	日本国内における社用車のガソリン消費量
	20	24	25	23	18		日本国内における社用車の軽油消費量
	51	50	58	53	65	85%	自家用地下水使用量
	317	341	348	365	384		上水使用量、工業用水使用量
	368	391	406	418	449		
	49	44	42	45	38	37%	
	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR取扱量
	2,237	3,757	3,559	1,749	2,964	85%	排出量 = $\Sigma(\text{燃料使用量} \times \text{CO}_2\text{排出係数}^{※4})$
	1,856	1,802	1,768	1,661	1,483		社用車からのCO ₂ 排出量
	4,093	5,559	5,327	3,410	4,447		
	19,195	20,278	19,201	20,438	19,385	85%	排出量 = $\Sigma(\text{購入電力量} \times \text{CO}_2\text{排出係数}^{※5})$
	-	-	19,573	16,711	21,571	-	排出量 = $\Sigma(\text{輸送重量} \times \text{輸送距離} \times \text{CO}_2\text{排出原単位}^{※6})$ 日本向け: 国内物流倉庫から国内顧客等(支店・営業所を含む)までの物流CO ₂ 排出量 海外向け: 国内物流倉庫から海外各地域の港・空港までの物流CO ₂ 排出量
	1,557	1,701	2,106	1,482	2,255	83%	廃棄物排出量 = 一般廃棄物排出量 + 産業廃棄物排出量
	1,419	1,535	1,436	1,361	2,117		
	788	986	814	1,044	1,264		廃棄物のうち、第三者による処理の結果、有価物になったものの量 燃料化(RPFなど)したものも含む
	1,283	1,411	1,309	1,213	1,617		廃棄物のうち、再使用、マテリアルリサイクル、熱回収(サーマルリサイクル)したものの量
	137	124	128	148	500		総廃棄物処分量 = 総排出量 - リサイクル(エネルギー回収を含む) 廃棄物
	56	64	57	77	60		
	90	92	91	89	76		
	164	192	189	273	292	85%	
	0	0	0	0	0	37%	化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR排出量
	0	0	0	0	0		化学薬品を扱う国内事業所におけるPRTR移動量

項目	内容		単位	対象範囲 <small>(※1)</small>
コンプライアンス	環境法規制の違反	高額罰金の総額	億円	国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場、国内営業拠点、国内その他事業所、海外主要拠点、海外生産工場、海外その他事業所
		罰金以外の制裁措置総件数	件	
	重大な化学物質の漏出・紛失	総件数	件	
		総漏出量	t	

(※1) 各年度のデータは当該年度の対象範囲による実績を示す。2018年度対象の詳細は下記の通り

国内主要事業所：シスメックス株式会社（本社・テクノパーク・ソリューションセンター）

国内機器工場：シスメックス株式会社（加古川工場・アイスクエア）、シスメックスメディカ、シスメックスRA

国内試薬工場：シスメックス国際試薬（小野工場・西神工場）

国内営業拠点：シスメックス株式会社（東京支社・他20拠点）

国内その他事業所：シスメックス株式会社（研究開発センター・他5拠点）

海外主要拠点：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ドイツ、シスメックス アメリカ、シスメックス 上海、シスメックス アジア・パシフィック

海外生産工場：シスメックス ヨーロッパ、シスメックス ブラジル、シスメックス リージェンツ・アメリカ、シスメックス インディア、

シスメックス アジア・パシフィック、済南シスメックス、シスメックス 無錫、シスメックス パルテック、シスメックス アイノスティクス、ハイフェン バイオメド

海外その他事業所：シスメックス 台湾、シスメックス コリア

(※2) カバー率は、会社別売上高を基に算出

(※3) 温室効果ガス排出量 スコープ1：企業の施設や工場から直接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ2：エネルギーの使用に伴う、企業から間接排出される温室効果ガス

温室効果ガス排出量 スコープ3：商品・サービスに関わる企業群（サプライチェーン）全体から排出される温室効果ガス

(※4) 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく換算係数もしくは排出係数

(※5) 日本：地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電気事業者別の排出係数

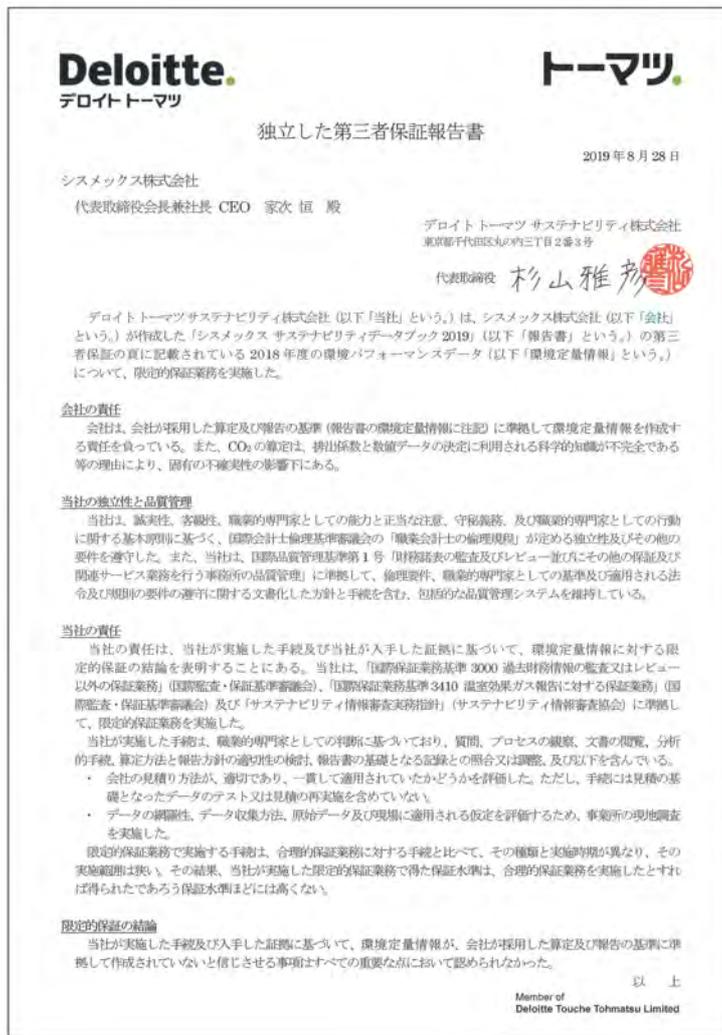
海外：IEA, Emissions from Fuel Combustionの排出係数（2018年度より当該係数を使用）

(※6) 「ロジスティクス分野におけるCO₂排出量算定方法 共同ガイドライン」に基づく排出原単位

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	カバー率 ^(※2)	算定方法など
	0	0	0	0	0	85%	
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		
	0	0	0	0	0		

第三者保証

「シスメックス サステナビリティデータブック 2019」では、開示しているデータの信頼性を向上させるため、環境パフォーマンスデータ（下表）について、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社の保証を受けております。



保証対象：

環境パフォーマンスデータ	2018年度実績
温室効果ガス排出量 スコープ1 ^{※1} (固定排出源からのエネルギー起源CO ₂ 排出量)	2,964 t-CO ₂
温室効果ガス排出量 スコープ2 ^{※1}	19,385 t-CO ₂
温室効果ガス排出量 スコープ3 ^{※1} (物流におけるCO ₂ 排出量)	21,571 t-CO ₂
水使用量 ^{※1}	449 千m ³
国内産業廃棄物排出量 ^{※1※2}	563 t

※1 各項目の対象範囲および算定方法などはP.76～P.79参照

※2 対象範囲：国内主要事業所、国内機器工場、国内試薬工場
「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく排出量

社会性データ

お客様関連

項目	2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
シスメックスカスタマーサポートセンターへのお問い合わせ（件）	88,909	89,583	86,906	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ シスメックス アメリカによる調査	9.2	9.2	9.2	詳細
米国のお客様満足度※ （点/10点満点） ※ IMV ServiceTrakによる調査	9.3	9.29	9.37	詳細

従業員関連

従業員関連（シスメックス株式会社の実績数値）

項目		2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
新卒採用	合計（名）	68	64	76	詳細
	男性（名）	38	32	44	
	女性（名）	30	32	32	
	うち外国人（名）	15	5	8	
中途採用	合計（名）	73	30	42	詳細
	男性（名）	56	23	36	
	女性（名）	17	7	6	
	うち外国人（名）	4	2	0	
離職※ ※ 正社員（定年退職除く）	離職者（名）	74	101	87	-
	離職率（%）	3.22	4.34	3.78	
障がい者雇用※ ※ シスメックスハーモニーの設立に伴い、2017年度以降は国内グループ会社の数字を追加	雇用者数（名）	54	51 (国内グループ会社 69)	50 (国内グループ会社 76)	詳細
	雇用率（%）	1.94	1.84 (国内グループ会社 2.04)	1.81 (国内グループ会社 2.21)	
定年退職者再雇用	希望者（名）	22	38	18	詳細
	再雇用者（名）	22	38	18	
	再雇用率（%）	100	100	100	
育児・介護理由の退職者再雇用	新規登録者（名）	5	3	2	詳細
	再雇用者（名）	0	0	1	
	再雇用率（%）	0	0	50	

正社員への登用実績	契約社員（名）	7	16	21	詳細
	派遣社員（名）	4	10	9	
	合計（名）	11	26	30	
労働災害	労災による死亡（名）	0	0	0	詳細
	労災によるけが（名）	3	2	5	
	労働災害度数率	0.53	0.35	0.89	
	労働災害強度率	0.09	0.05	0.06	
	延べ労働損失日数（日）	494	308	325	
	延べ実労働時間数（時間）	5,641,249	5,635,447	5,612,498	
有給休暇	付与日数（日）	51,667	49,177	52,116	詳細
	取得日数（日）	31,305	32,063	35,232	
	取得率（%）	60.6	65.2	67.6	
産前産後休職利用者（名）		48	39	41	
育児休業利用者	女性（名）	56	32	40	
	男性（名）	3	1	3	
育児のための勤務時間短縮制度利用者	女性（名）	47	58	56	
	男性（名）	0	1	2	
介護休業利用者	女性（名）	2	5	1	
	男性（名）	0	0	1	
育児休業からの復帰率	女性（%）	98	97	99	
	男性（%）	100	100	100	
積立有給休暇利用者（名）		78	104	130	
在宅勤務利用者（名）		-	100	112	
フレックスタイム利用者（名）		1,949	2,086	2,008	
社内託児所利用児童	年間延べ（名）	32	34	32	
	年度末時点（名）	26	30	26	
研修実績	従業員1人当たり費用（円）	108,000	103,000	109,000	
	従業員1人当たり時間（時間）	19.4	15.4	16.6	
	研修プログラム数（個）	23	14	20	
インターンシップ生受け入れ人数	合計（名）	135	128	125	
	うち外国人（名）	1	9	6	

注) 定義の変更に伴い、過去の開示データから一部修正しています。

	2016年度	2017年度	2018年度
従業員数（名）※ ¹	2,083 (497)	2,046 (504)	2,049 (501)
平均年齢（歳）	40.5	40.7	41.1
平均勤続年数（年）	11.6	12.0	12.3
平均年間給与（千円）※ ²	7,853	7,826	7,822

※¹ 従業員数はシスメックス株式会社から社外への出向者を除き、社外からシスメックス株式会社への出向者を含む就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を（ ）外数で記載

※² 平均年間給与は、基準外賃金および賞与を含む。

従業員関連（シスメックスの実績値）

項目		2016年度	2017年度	2018年度	関連記事
女性管理職比率 （課長級以上）	シスメックス株式会社（％）	8.8	8.6	8.1	詳細
	グループ全体（％）	16.2	15.2	15.2	

項目			2017年度		2018年度	
グループ 男女比率	日本	男性（％）	59.1	正社員、受入出向者、 有期雇用 （役員、派遣社員 除く）	58.4	正社員、受入出向者、 有期雇用 （役員、派遣社員 除く）
		女性（％）	40.9		41.6	
	米州	男性（％）	63.7	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員	61.1	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員
		女性（％）	36.3		38.9	
	EMEA※	男性（％）	55.7		55.2	
		女性（％）	44.3		44.8	
	中国	男性（％）	65.7		66.0	
		女性（％）	34.3		34.0	
	アジア・ パシフィック	男性（％）	61.4		61.9	
		女性（％）	38.6		38.1	

項目			2017年度		2018年度			
グループ 従業員数	日本	男性（名）	2,077	正社員、受入出向者、 有期雇用 （役員、派遣社員 除く）	2,071	正社員、受入出向者、 有期雇用 （役員、派遣社員 除く）		
		女性（名）	1,440		1,475			
	米州	男性（名）	740	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員	731	正社員、受入出向者、 有期雇用、役員		
		女性（名）	422		465			
	EMEA※	男性（名）	1,318		1,355			
		女性（名）	1,049		1,099			
	中国	男性（名）	412		452			
		女性（名）	215		233			
	アジア・ パシフィック	男性（名）	474		516			
		女性（名）	298		318			
	合計（名）		8,445				8,715	

※ 欧州・中東・アフリカ地域

社会貢献活動関連

項目	2017年度	2018年度
社会貢献支出額 （シスメックス株式会社）	約5億1,000万円	約5億3,000万円

2018年度実績データ

ガバナンスデータ

▶ コーポレート・ガバナンスについてはこちらをご覧ください。

医療機関等への資金提供等に関する情報[※]

日本

(単位：千円)

種類	詳細	2015年度	2016年度	2017年度
研究費開発費等	大学や研究機関等との共同研究または委託研究、公的規制のもとで実施される臨床試験、治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査、および企業が独自に行う調査等の費用が含まれます。	233,911	132,347	297,106
学術研究助成費	医療技術の学術振興や研究助成を目的として行われる奨学寄付金、一般寄付金、および学会等の会合開催を支援するための学会寄付金、学会共催費が含まれます。	120,520	1,950,674	312,138
原稿執筆料等	医学・薬学に関する情報、自社製品の適正使用等に関する情報等を提供するための講演や原稿執筆、コンサルティング業務の依頼に対する対価（報酬）等が含まれます。	43,264	39,246	42,990
情報提供関連費	医療関係者に対する自社製品の適正使用、安全使用のために必要な講演会、模擬実技指導、説明会等の費用が含まれます。	162,655	157,657	233,292
その他の費用	社会的儀礼としての接遇等の費用が含まれます。	37,144	21,374	35,902
合計金額		597,494	2,301,298	921,428

米国 サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	242	477	667
	金額	US \$137,658	US \$99,210	US \$152,027
研究	件数	21	26	9
	金額	US \$209,370	US \$342,614	US \$228,092

フランス サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	226	346	351
	金額	€ 34,611	€ 53,700	€ 27,603
役務に対する報酬	件数	1	9	7
	金額	€ 4,000	€ 51,776	€ 58,500
契約	件数	12	16	19

ベルギー サンシャイン法

種類		2016年	2017年	2018年
金銭または金銭的価値のある物品	件数	-	6	7
	金額	-	€ 11,563	€ 9,261

※ 当情報は、行政当局または医療機関等による確認等を通じ修正されることがあります。

※ 過去の開示データから一部修正しています。

公開対象

米国

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、研究）

- 米国の医師
- 米国の教育研究病院

フランス

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品、役務に対する報酬、契約）

- フランスの医師、医療専門家、医学生
- フランスの医療関連法人（教育機関、企業等）

フランスのサンシャイン法では、契約金額は公開対象ではありません。

ベルギー

以下の相手先に対しての資金提供等（金銭または金銭的価値のある物品）

- ベルギーの医療従事者
- ベルギーの医療関係の団体
- ベルギーの患者団体

▶ その他のガバナンスデータについてはこちらをご覧ください。

情報開示体系

非財務情報	財務情報
統合報告書「シスメックスレポート」(年度報告書) 中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた統合報告書を作成しています。	
CSR (企業の社会的責任) サイト サステナビリティへの取り組みについて詳細を開示しています。  <ul style="list-style-type: none">・サステナビリティデータブック (年度報告書) PDF	IR情報サイト 財務情報や株式・株主情報を詳細に開示しています。 <ul style="list-style-type: none">・有価証券報告書・決算短信 など 
コーポレート・ガバナンスに関する報告書	

編集方針

「サステナビリティデータブック」は、統合報告書「シスメックスレポート」(中長期的な価値創造の観点から財務・非財務情報を簡潔にまとめた報告書)を補完するもので、シスメックスの社会的責任(CSR)に関する詳細情報を記載しています。「シスメックスレポート」とともに、ステークホルダーの皆様との対話を深め、シスメックスの価値を総合的に判断いただくことを目的として、2019年度から発行*しています。
※2018年度までは「シスメックス あんしんレポート」を発行。

参考にしたガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative)
「GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード」
- ・環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

対象組織

原則としてシスメックス(シスメックス株式会社および国内・海外グループ会社)を対象としています。本報告書中の「シスメックス」はシスメックスグループを、「シスメックス株式会社」は、シスメックス株式会社単体を指します。

対象期間

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。最新情報については、CSRサイトのCSRニュースでお伝えします。

発行時期

2019年8月 ※英語版は9月発行予定

本報告書に関するお問い合わせ先

シスメックス株式会社 CSR・環境推進部
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
Tel 078-265-0500 (代表) Fax 078-265-0524

将来に関する予測・計画について

本報告書には、シスメックスに関する過去の事実だけでなく、将来の予測・計画なども記載しています。これらの予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。従って、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。読者の皆様には、以上を予めご承知いただきますようお願いいたします。

シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073

Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524

www.sysmex.co.jp